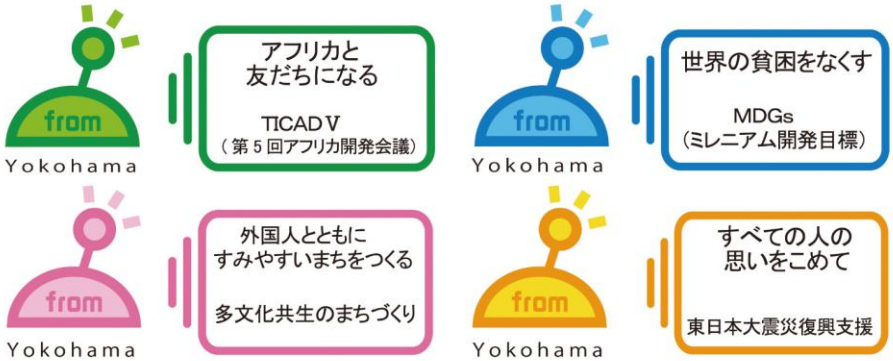
よこはま国際フォーラム2013

実 施 報 告 書

日時　**2月9日（土）／10日（日）**

11：00 - 19：00　　11：00 - 17：00

会場　**JICA 横浜**



～第５回アフリカ開発会議（TICAD V）パートナー事業～

●主催 よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム（よこはまＣプラット）運営委員会
よこはま国際フォーラム 2013 プロジェクト
（特活）横浜 NGO 連絡会 / 公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）/ JICA 横浜 /
（特活）教育支援協会 / 日本赤十字社神奈川県支部

●事務局　（特活）横浜 NGO 連絡会
〒231-0001　横浜市中区新港 2-3-1　TEL：045-662-6350
E-mail：info@yokohama-c-plat.org

１．開催目的

１）横浜市内および周辺地域に活動拠点を置く、国際協力、国際交流、多文化共生、在住外国人支援に取り組むNGO/NPO、行政機関、国際機関、学校、企業等の活動の推進と地域ネットワークの構築を図る。
２）地域住民が主体的に参加することにより国際協力、国際交流、多文化共生への知見を深め、将来的にこの分野で地域に貢献できる人材を育成する。
３）国際協力や国際交流の文化が根付いた活力のある地域づくりを推進する。

２．開催概要

【日時】
2013年2月　9日(土)11：00～19：00
2月10日(日)11：00～17：00
（受付開始：両日とも10:00より）

【会場】
JICA横浜　４Ｆセミナールーム、１Ｆ会議室、１Ｆギャラリー
〒231-0001　神奈川県横浜市中区新港2-3-1

【参加費】
一般：500円（2日間有効）
高校生以下　無料　＊事前申込制

【参加団体】
43団体（NGO/NPO、学校、国際機関等）
企画講座数：52講座

【テーマ】
・アフリカと友だちになる～TICADV(第5回アフリカ開発会議)
・世界の貧困をなくす～MDGs(ミレニアム開発目標)
・外国人とともにすみやすいまちをつくる～多文化共生のまちづくり
・すべての人の思いをこめて～東日本大震災復興支援
・その他のテーマ
【内容】
１．国際協力・国際交流・在住外国人支援等に関わる団体による 市民向けセミナーやワークショップ
２．ボランティアやNGOに関する相談
３．ギャラリー展示：「よこはま国際フォーラム2013 パネル展示」
　　2013年1月29日（火）～2月18日（月）

【来場者】講座参加のべ人数：1958 人（2 日間）　対前年比　147%

【ボランティア】2 日間のべ：128 人（概算）
うち e-vo:66 人（のべ）　〈前年度〉 e-vo48 人（のべ）　対前年度比 138%

【主催】
よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会
　よこはま国際フォーラム 2013 プロジェクト
＜構成団体＞
(特活) 横浜 NGO 連絡会、公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE)、JICA 横浜、
(特活) 教育支援協会、日本赤十字社神奈川県支部
＜事務局＞
（特活）横浜 NGO 連絡会

３．評価

今回が、3 回目の開催となりフォーラムの知名度が上昇し地域に定着してきました。参加団体や来場者の増加、東京の大手 NGO や企業の参加もこれを裏付けていると言えます。来場者ひとりひとりの関心度もとても高い印象でした。今年度は、本プラットフォームが 2012 年度のテーマとして掲げた４つのテーマに「その他」を加えた５テーマを設けるという手法を初めて導入しました。この手法も工夫や改善をさらに進めることにより、より訴求力の強いある価値あるフォーラムを創り出せると思われます。テーマ毎に展示の工夫をしたギャラリー展示は、昨年度よりも展示物の数も多く、来場者へのアピール度も高くなりました。

来場者アンケート、参加団体アンケートの結果も多くの項目で良好であり、挙げられた個々の課題を丹念に検討しながら、次年度の開催に反映させたいと思います。

（１）参加団体・開催講座
参加団体・開催講座数共に昨年度実績を上回りました。

43 団体（うち、よこはま C プラット運営委員会構成団体：4 団体）　〈昨年度〉40 団体　対前年比 108%
52 講座（うち、よこはま C プラット運営委員会構成団体：12 講座）　〈昨年度〉47 講座　対前年比 111%
新規参加団体：4 団体

昨年度は追加募集を行ないましたが、今年度は追加募集をせずに参加団体が充足しました。TICAD V に関して誘致講座を 1 講座、設定しました。

参加団体の募集時期は昨年度よりも遅くなりました。よこはま国際フェスタの開催時期や参加団体と事務局の作業負担のバランスをみて、1 次募集をフェスタの募集と同時に行なうなどの方法を検討する必要があると思われます。

今年度から初日の開催時間を 2 時間延長し講座コマ数を昨年度よりも増やしました。その結果、利用率は、定員 40 人、60 人の部屋の利用率は、100%。定員 80 人の部屋の余剰コマ数は 1 のみでした。こ

れに対して 25 人定員の部屋では利用率が低くなりました。これは、少ない席数のために講座開催がしにくく、利用を敬遠された側面もあると思われます。

最大コマ数		(a)	利用コマ数（%）		(b)	余剰コマ数(a)-(b)	(b)/(a)*100
2/9	2/10	小計	2/9	2/10	小計	合計	
2011	36	36	72	33(92%)	35(97%)	68	4	94%
2012	48	36	84	45(94%)	27(75%)	72	12	86%

講座開催セミナールームの入室率（参加人数/定員*100%）は、83%（最大 144%）であり、前年度の 72%から 10 ポイント上昇しました。

（２）来場者および参加費

講座参加のべ人数は、1,958 人と過去最高を記録しました。

参加費は、一般：500 円、高校生以下：無料という前年度設定を踏襲しました。今年度の調査では、2 日間連続して参加した一般来場者は、69 人に留まり、事前参加申し込みと当日の受付をよりわかりやすくすることを目的に次年度からは、1 日毎の受付とし、参加費の設定を現行の 500 円/2 日から 500 円/1 日と変更することが望ましいと思われます。

2 月 9 日：1,156 人
2 月 10 日： 802 人
合計： 1,958 人 <前年値>1.336 人、対昨年比：147%

一般来場者数は、653 名であり、昨年度よりも微増（105%）という結果になりました。高校生は、昨年度の 68%と減少しました。

2 月 9 日：379 人（うち高校生以下：65 人、当日申込数：85 人）
2 月 10 日：274 人（うち高校生以下：24 人、当日申込数：87 人）

合計： 653 人（うち高校生以下：89 人、うち当日申込人数：172 人）

参加申し込みは、事前申込制とし、前年度を踏襲して、オンライン、メール、ハガキ、学校単位の 4 種類で受付ました。結果、事前予約数は、554 人であり、同様に微増（昨年比 107%）となりました。事前予約の 90%はインターネット経由によるものでした。また、事前申込者の来場率は、87%でした。

オライン申込： 372 人
メール申込： 124 人
ハガキ申込： 10 人
学校： 48 人

合計： 554 人

（3）配布資料

広報チラシ・サマリー集、参加団体資料配布セット・ご案内の 4 点を来場者に配布しました。内容は下記の通りです。前年度、配布した「プログラム」は廃止しました。

①広報チラシ

前年度の基本デザインを踏襲しました。前年度は専ら事前広報用に使用し、当日配布は実施しませんでしたが、今年度は廃止したプログラムの代替として講座スケジュール確認用の資料としても活用しました。

②サマリー集

<仕様>　A4 版、本文 18 ページ、リソグラフ印刷（1 色刷り）、ホチキス止め

<発行数>　1,000 部

配布時の読み易さに加えて印刷・製本の作業工程を大きく圧縮するために、前年度・前々年度の A5 版仕様を改定し、A4 仕様としてさらに 1 ページあたりの掲載講座数を 3 講座というレイアウトとすると共に折り工程がない A4 用紙裏表面印刷としました。印刷部数も昨年度、残部が多めであったことを踏まえて、1,000 部に減らしました。

	前年度	今年度	対前年度比
本文ページ数：	68 ページ	18 ページ	26%
印刷部数：	1,200 部	1,000 部	83%

③参加団体資料配布セット

作成部数：702 部　　（団体から提出された資料に限りがあるために内容物の充実度は先着順）

団体からの提出資料枚数（配架用を含む）：10,580 枚

今年度、初めての試みとして団体より提出された資料をよこはま C プラット専用封筒（A4 サイズ）に入れて来場者に配布しました。団体からの提出資料をギャラリーおよびフォーラム当日の情報コーナー（今年度は本配布セットの実施により廃止）での配架を行なっても来場者が手に取るケースが少ないために参加団体の情報をより効率的に来場者に届けることを目的に実施したものです。

（4）会場運営

機材トラブルも数件と少なく、例年よりもスムースでした。使用機材が新しくなった効果が出ていると思われます。今後は会場案内板の設置や来場者のご案内方法をさらに工夫するとさらによいサービスを提供できると思われます。

（5）相談コーナー

今年度は、シニアボランティア経験を活かす会、青年海外協力隊神奈川県 OB 会、外務省 NGO 相談員出張サービス（(特活）横浜 NGO 連絡会）に加えて JICA-PARTNER が新規参加し、計 4 団体合同

で実施しました。会場は昨年度よりも広いスペースを取りましたが、相談件数が昨年度よりも少ないという結果に終わりました。これは、レイアウトの問題や 4 団体を統括するインテーク窓口に常駐者がいないこと、相談者を迎え入れるサービス感覚が不足していたことなどに原因があると考えられます。関心層が多く集まることから潜在需要は高いと判断され、今後の改善が期待されます。

（7）サービス提供

救護室を設置し日本赤十字社神奈川県支部から派遣された看護師が常駐しました。結果的には、利用者はなく無事に閉幕しました。また、ボランティア・スタッフ用のクロークを新たに設置しました。

レストランでは、 よこはま国際フォーラム 2013 記念メニューが販売されました（800 円、幕の内）。昼食時、特に 2 月 10 日の昼時は、フォーラム参加者以外の外部利用者の人数も相当に多く、レストラン前フロアの待機列が階段まで続くなどの場面もみられました。そのため急遽事務局スタッフの対応に続き、ボランティアスタッフ 2 名を配備して整理対応を行ないました。

来場者が持参した食事を取ることができる交流スペースを 2 か所に新規設置しました。2 部屋に別々のコンセプトを与え、BGM、参加団体による提出画像のスライドショーなど快適性にも配慮し、多くの来場者により利用されました。

セミナールームの満室情報を 1 F 一般来場者受付に設置した大型モニターに映し出し来場者に情報公開しました。1 F と 4 F 本部に設置した PC によるインターネット通信（Facebook を活用）を実施したものです。 4 F 本部への情報は、本部担当スタッフが各セミナールームの情報を集約しました。
これにより、各セミナー室の情報を既存の方法よりもより詳しく情報収集して来場者に伝達できました。モニター設置場所、表示画面などの工夫により、質的な向上が見込めると思われます。

（8）障害者への情報保証

特別な対応は例年同様にしていなかったところ、聴覚障害者（1 名、東京都在住）からの参加希望と主催者による情報保証についての希望があり、当事者から希望があった 3 講座に対して要約筆記者 4 名の派遣を神奈川県聴覚障害者福祉センターに対して要請をしました。費用支出を伴うことから次年度以降、予算化を図ることが必要です。

（9）ブルーライト・セッション

フォーラム終了後（2013 年 2 月 10 日（日） 17：30~19：30）に JICA 横浜 4 F かもめを会場に開催しました。フォーラム参加団体、ボランティア、主催団体による交流会として初開催したものであり、予定を上回る 80 名（15 団体）の参加者が集まり盛況でした。

４．当日の様子

１F　受付

開催講座

相談コーナー

開催講座

ギャラリー

ブルーライトセッション

５．広報

（１）広報チラシ

印刷数：17,000 部（前年度より増刷）　　<前年度>12,000 部　対前年度比

運営委員団・参加団体の配布数	(枚)
公益財団法人　横浜市国際交流協会	10,000(ヨークピアに同封、前年度：8,000)
日本赤十字社神奈川県支部	1,500
JICA 横浜	1,000
参加団体：	2,900
事務局広報：	369
事前広報配布数	15,759
来場者配布　及び	1,241
ギャラリー展示および関係者配布	
(次年度資料を含む)	
合計	17,000

参加団体宛の配布については、前年度は定数（講座に使用するセミナー数に応じて決定）を配布していましたが、今年度は事前に必要枚数を聴取した上で団体宛に送付することにより、昨年度以上の広報協力を仰げる団体を確保すると同時に無駄になる残部の削減を図ることができました。しかし、増刷をしたにも関わらず配布枚数の余裕がなくなり、事務局が当初予定していた広報戦略通りに進めることができませんでした。次年度は今年度よりもさらに増刷をして効果的な広報に供する必要があります。

（２）インターネット：

Web：Top ページが見にくい、申込方法が煩雑で申込画面へのアクセスがしにくいなどの指摘もありました。一方、一般来場者の 14%が Web により開催情報を得ており一定の広報の役割を果たしていることがわかります。

Twitter：参加団体募集、一般参加広報、Facebook 記事投稿案内

Facebook：サマリー・画像の提出順に従って紹介記事投稿を 1 順。テーマ毎紹介など事前広報。
フォーラム開催後、参加団体からのコメントを提出順に掲載しました。

（３）メディア掲載

事前広報

カナチャリ（Web）

横浜経済新聞（Web）

人流（入管協会）

事後掲載

神奈川新聞（YOKE）

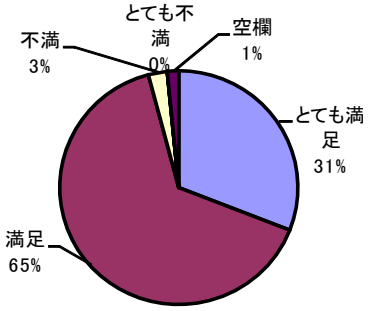
読売新聞（AJF/TICAD V　NGO コンタクトグループ　　=誘致講座）

６．アンケート集計結果

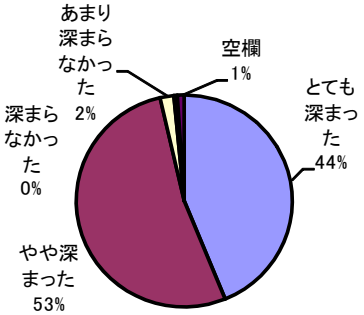
よこはま国際フォーラム2013　来場者アンケート （2日分）

回答数　194 （61(2/9)　133(2/10)）

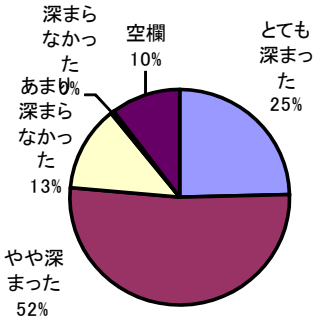
1. 全体的評価



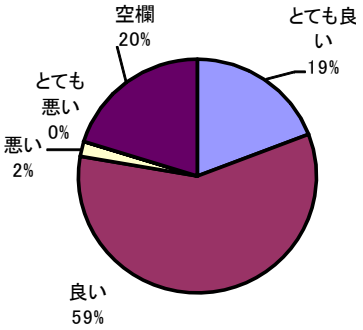
2. 関心



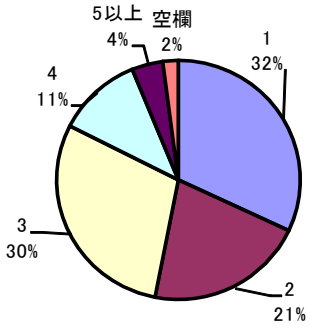
3. テーマの理解



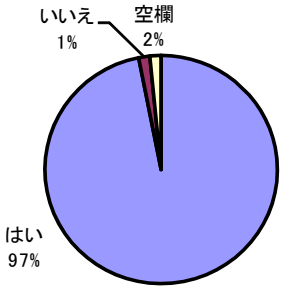
4. ギャラリー展示



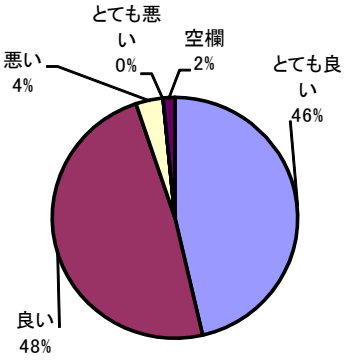
5. 参加講座数



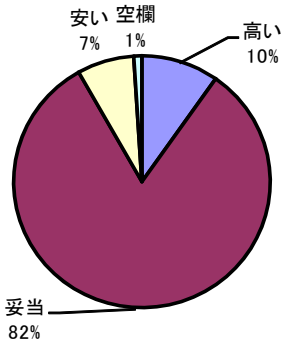
6. 次回参加



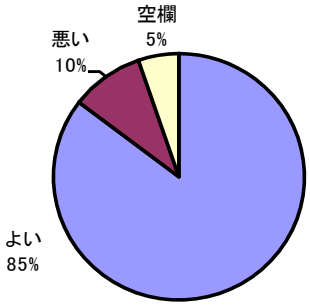
7. 会場



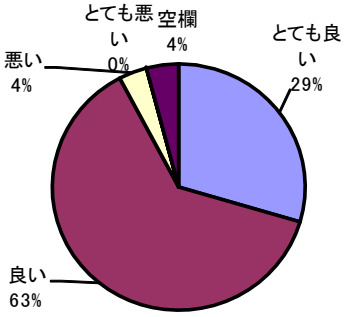
8. 参加費



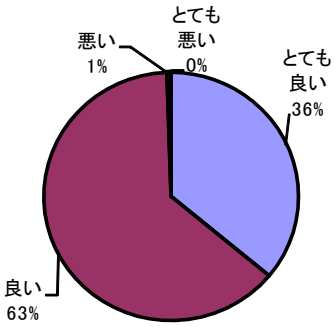
9. 事前申し込み方法



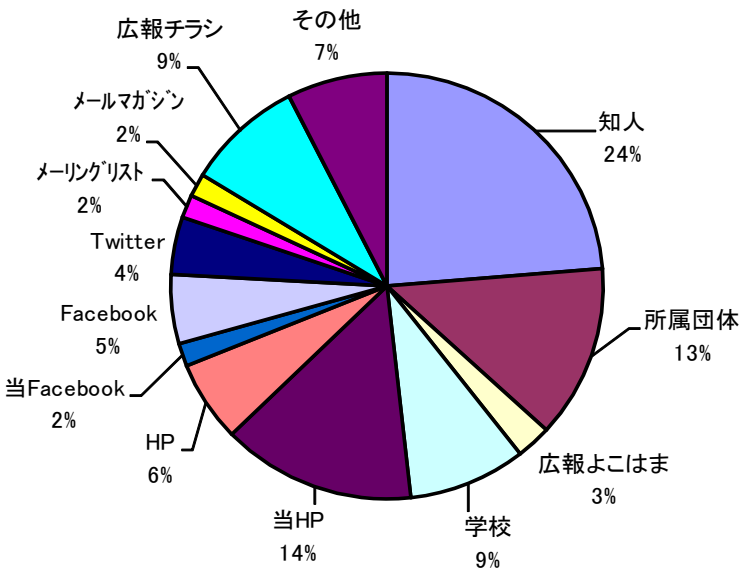
10. 資料



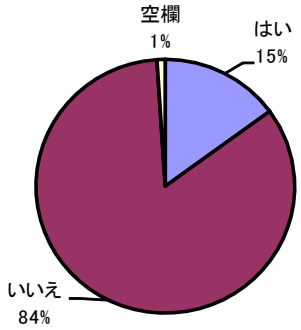
11.スタッフ対応



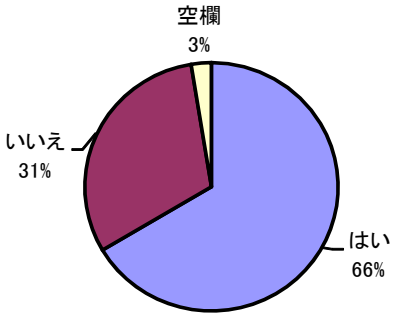
12. 情報源



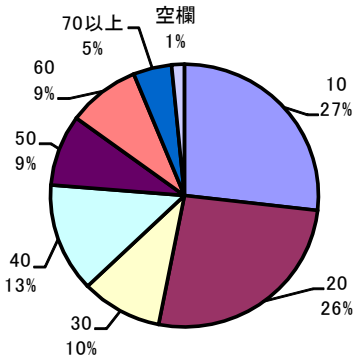
13. 昨年来場



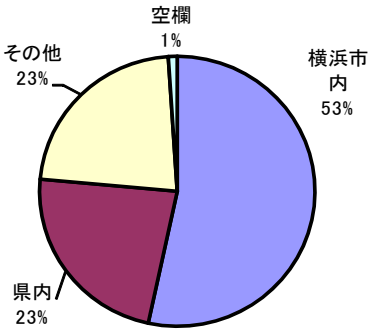
14. セミナー参加



15. 年代



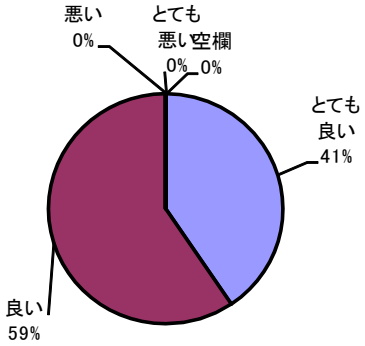
16. 住まい



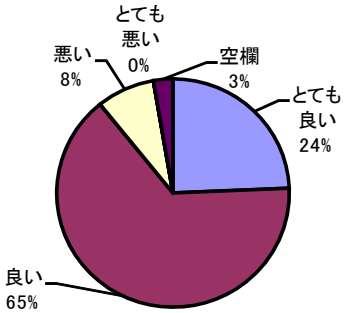
よこはま国際フォーラム2013　参加団体アンケート

2013.2.20現在　26回答（うち　△7回答）

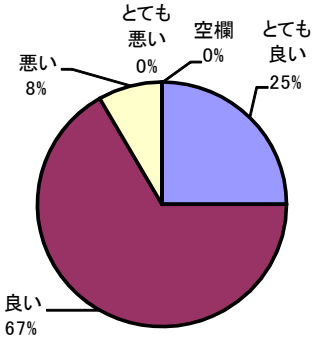
会場



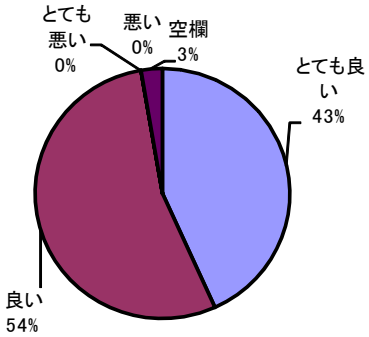
日程



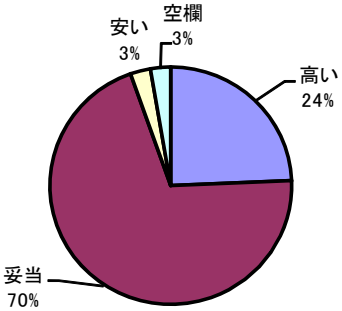
機材



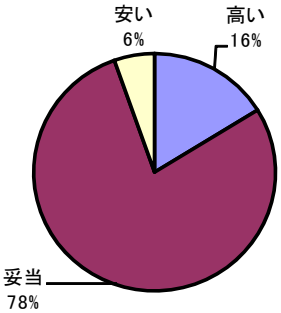
スタッフ対応



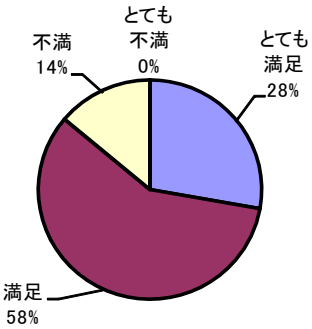
参加費



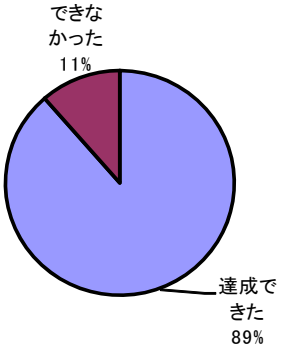
来場者参加費



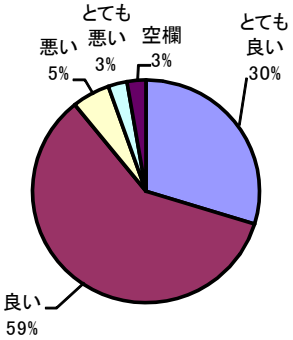
参加人数



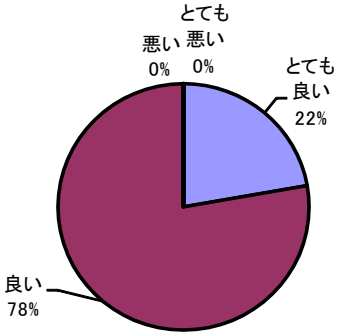
目標



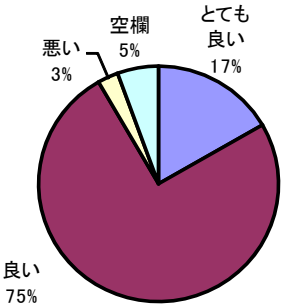
広報チラシ



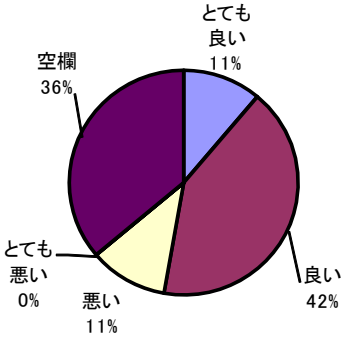
ホームページ



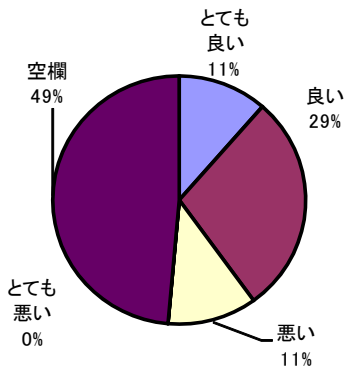
当日プログラム



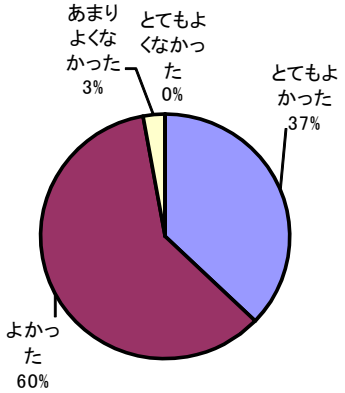
Facebook



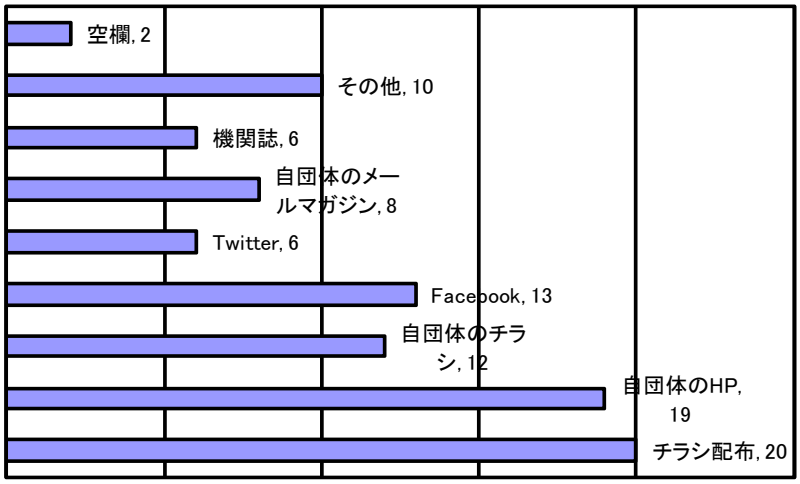
Twitter



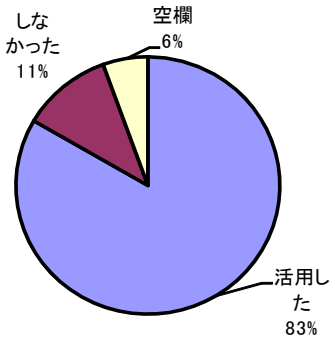
事務連絡



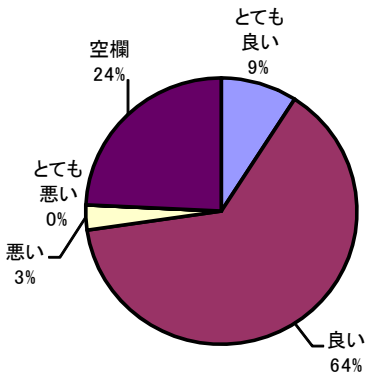
独自の広報活動



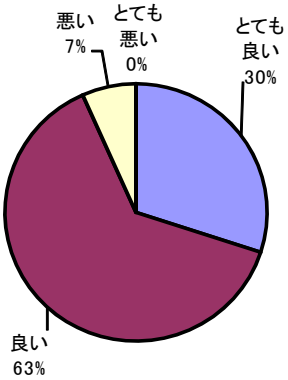
事前広報チラシ



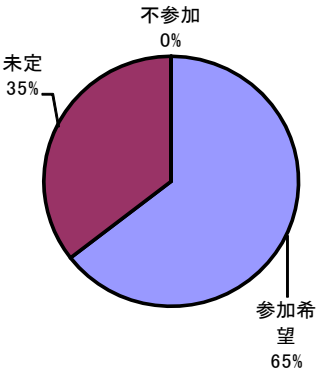
ギャラリー展示



テーマについて



来年度



７．収支決算

よこはま国際フォーラム2013収支決算

【収入】

費　目	2012決算
運営委員団体からの参加費および負担金	50,000
団体参加費	260,000
来場者参加費(有料分)	259,400
雑収入 （ブルーライトセッション）	55,631
広告協賛	0
同時通訳機材代立替分	78,750
当期収入	703,781
予備費	50,000
よこはま国際フォーラム収入	**753,781**

【支出】

費　目	2012決算
印刷製本費	81,300
消耗品費	165,508
交通費／運搬費	25,400
通信費	5,460
同時通訳機材代	78,750
雑費	3,000
イベント総合保険	24,000
広報・キャンペーン	51,348
情報保障	34,760
支払手数料	1,000
web制作費	50,000
人件費	150,000
合計	670,526
次年度準備金	83,255
フォーラム合計	**753,781**